

DAIWABO HOLDINGS

Digest

2026.9 no.77

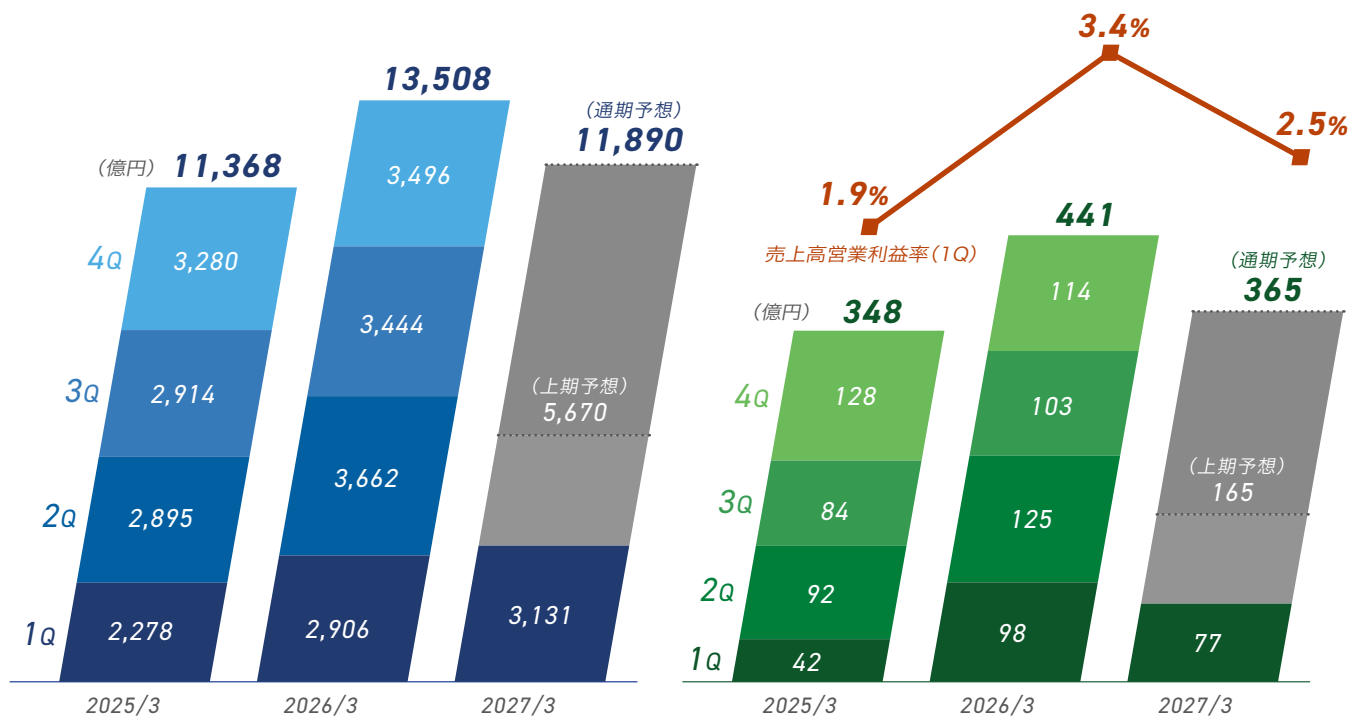
年2回発行

「MUSUBITE」に込めた、
私たちの未来への想い



2027年3月期第1四半期決算

メモリ価格の高騰など見通しが不透明な中でも、
データセンター向けやAI関連の案件を獲得し売上は伸長、
利益は計画通りに推移



売上高 **3,131** 億円 上期進捗率 **55.2%**
前年同期比 **+7.8%** 通期進捗率 **26.3%**

営業利益 **77** 億円 上期進捗率 **46.7%**
前年同期比 **△22.0%** 通期進捗率 **21.1%**

	2026年3月期 連結決算			2027年3月期 第1四半期連結決算		
(百万円)	2025/3	2026/3	前期比	2026/3 1Q	2027/3 1Q	前年同期比
売上高	1,136,817	1,350,879	+18.8%	290,601	313,148	+7.8%
ITインフラ流通事業	1,123,922	1,336,479	+18.9%	286,734	310,098	+8.1%
産業機械事業	12,895	14,400	+11.7%	3,866	3,050	△21.1%
営業利益	34,899	44,169	+26.6%	9,876	7,701	△22.0%
ITインフラ流通事業	34,045	43,030	+26.4%	9,492	7,461	△21.4%
産業機械事業	852	1,127	+32.3%	379	236	△37.7%
経常利益	35,454	44,943	+26.8%	10,111	7,873	△22.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益 / 四半期純利益	24,751	32,030	+29.4%	7,195	5,795	△19.5%



「MUSUBITE」に込めた、 私たちの未来への想い

ダイワボウホールディングス 代表取締役社長 **西村 幸浩**

来年4月1日、当社グループは「MUSUBITE 株式会社」として新たなブランドストーリーを歩み始めます。
新社名に込めた想いと、私たちが未来に向けて目指す企業グループの姿について、西村社長が語ります。

新社名への決意

来年4月1日、当社グループは新たなスタートを切ります。持株会社であるダイワボウホールディングス株式会社は「MUSUBITE 株式会社」へ、そしてITインフラ流通事業を担うダイワボウ情報システム株式会社は「DIS 株式会社」へと社名を変更します。

社名は企業の歴史や価値観を象徴する、代々受け継がれてきた大切な資産と言えます。その名前を変えることは、決して簡単なものではありませんでした。なぜ社名を変更するのか、そして「MUSUBITE」という新しい名前にどのような想いを込めたのかを、皆さんにお伝えしたいと思います。

「ダイワボウ」という名前は祖業である大和紡績株式会社に由来し、長年にわたり多くの方々に親しまれ、当社グループの歴史そのものと言える名前です。その大和紡績が当社グループから2024年3月に独立し、現在はITインフラ流通事業と産業機械事業の2事業体制として新しい歴史を歩み始めています。この当社グループの事業実態をより正確に表すために、また大和紡績も再上場を目指して歩み始めていることも踏まえ、このタイミングで「ダイワボウ」から卒業し、新しい社名にすることが最適だと考えました。

新しい社名をゼロから考える

新しい社名を考えることは想像以上に難しい挑戦でした。2009年の経営統合による商号変更の際は「ダイワボウホールディングス」という祖業の名前を引き継ぐことが自然な流れでした。しかし今回は、まったくゼロから新しい企業グループの名前を考えなければなりません。プロジェクトが始まったのは2025年5月。「社名を変えるとはどういうことか」「ブランドとは何か」という基本的な考え方をプロジェクトメンバー全員で学び直し、多くの企業事例も研究しました。

特に時間をかけて議論したのが、持株会社とダイワボウ情報システムの新社名の関連性をどうするかという点です。ダイワボウ情報システムの新社名を先に決めて、親会社である持株会社がその新社名に関連する社名にするのか。持株会社が「DIS」の名前を引き継ぎ、ダイワボウ情報システ

ムが全く新しい名前にするのか。さまざまな選択肢を検討しました。

議論を重ねる中で改めて見えてきたのは、それぞれが目指す姿でした。

持株会社の役割はグループ全体のパーパスを実現し、「なくてはならない企業グループ」として「All-in-One Solution Company」へ導いていくこと。一方、ダイワボウ情報システムは、これまで培ってきた商人としての強みを生かし、ITの力でこれからも全国へ新しい価値、新しい未来を届け続けることです。

どちらか一方に合わせるのではなく、それぞれが大切にしたい「ありたい姿」を尊重した結果、それぞれが独自に新しい社名を考えるという結論に至りました。親会社と子会社が同じブランド名を冠する企業グループも多くありますが、私たちは、それぞれの使命を最も素直に表現できる名前を選ぶことが、これからのグループの成長につながると考えました。

「ありたい姿」から生まれた「MUSUBITE」

その後も何度も議論を重ね、250を超える候補の中から9案に絞り、ホールディングス社員へのアンケートも実施しました。最終的に3案まで絞り込み、最後まで討議を重ねた結果、最も当社グループのパーパスを体現している名前として選ばれたのが「MUSUBITE」です。

私たちのグループは紡績事業から始まり、技術力と営業力を強みに事業領域を広げながら成長してきました。その歩みを振り返ると、常に「つなぐこと」「結びつきを生み出すこと」によって新しい価値を創造してきた企業グループであったことを改めて認識します。

ITインフラ流通事業でも、メーカーと販売パートナーを結び、日本全国にいるその先のお客様へ価値を届けてきました。当社グループがこれから新しい事業領域へ挑戦していく中でも人とテクノロジー、人と人を結び、企業が社会につながることで新たな価値を生み出していくことこそが、私たちの本質であると考えています。

だからこそ、「バリューチェーンで、人をつなぐ、社会をつなぐ、未来へつなぐ」というパーパスを実現する企業とし

て「結び手」であり続けたい。その想いを、この社名に込めました。

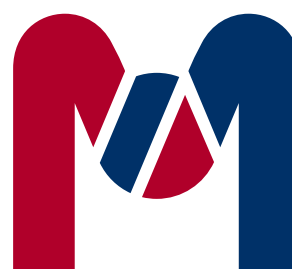
「結ぶ」ことが、私たちの価値創造

どれだけテクノロジーが進化し、社会がどのように変化しても、その変化の中心にいるのが「人」であることは変わりません。人とテクノロジー、人と価値、人と人。その結びつきがあるからこそ、新しい価値は生まれます。そしてバリューチェーンというその価値には、お客様だけでなく、取引先パートナー、地域社会、そしてグループで働く一人ひとりへの感謝と尊重が含まれています。バリューチェーンの広がりや、信頼関係がより高まっていくことでもあります。

社名は変わります。しかし、私たちが大切にしてきた「人を想い、価値をつなぎ、新しい未来を創る」という姿勢は変わりません。社会の変化がますます加速する時代だからこそ、結ぶことを私たちの強みに変え、新しい未来を切り拓いていきたいと思えます。そして皆さん一人ひとりが「MUSUBITE」という新しいグループに、新しい歴史と価値を積み重ねる担い手になってくれることを期待しています。

新しいシンボルマーク「Mindful Knot」

ロゴマークにも私たちの考え方を表現しています。中央の結び目は「結ぶ」という意思を象徴するとともに、人々が心を通わせる「握手」の姿も重ね合わせています。このシンボルマークには「Mindful Knot」という名前を付けました。皆さんにもぜひ、この名前で親しんでいただければと思います。



名称
Mindful Knot

最も当社グループのパーパスを体現している
名前として選ばれたのが「MUSUBITE」です



ダイワボウホールディングスは、

新たな社名に込めた想い。

「MUSUBITE」という新商号には、
さまざまな社会活動から構成されるバリューチェーン（価値連鎖）の「結び手」となり、
新たな価値を創造し続ける企業グループでありたいという
当社グループの強い意志を込めました。

Purpose / 私たちがめざすもの

バリューチェーンで
人をつなぐ、
社会をつなぐ、
未来へつなぐ

私たちは、事業活動を通じて生み出されたそれぞれの価値をつなぎ合わせ、
より大きな価値へと高め、強固に連鎖させる「結び手」でありたいと考えています。
「つなぐ」ことで仕組みを支え、「むすぶ」ことで絆を強める。
この両面を備えた質の高いバリューチェーンを目指してまいります。

MUSUBITE株式会社へ。

新ロゴに込めた想い。



「MUSUBITE」の頭文字である「M」をベースに、
バリューチェーンを強固につなぐ「結び目」をモチーフとしてデザイン。
新たな価値を創造し続ける企業グループとしての強い意志をシンボルで表現しています。
また、この「結び目」には、人と人が心を通わせる「握手」の姿も重ね合わせています。
人とテクノロジー、人と価値、人と人。その大切な役割の担い手「結び手」で
あり続ける企業としての、揺るぎない「力強さ」と、
人を想う「親しみやすさ」を内包したシンボルマークです。

新 商 号：MUSUBITE 株式会社（発音：ムスビテ株式会社）

英 文 表 記：MUSUBITE Inc.

変更予定日：2027年4月1日



DIS ダイワボウ情報システム株式会社 は2027年4月から



DIS 株式会社

に社名変更します!

／ 新社名への想い ／



ITの可能性を最大限に引き出し、

日本全国47都道府県の地域社会をより豊かに、より元気に。

その活性化に貢献していくという強い想いを、この新社名に託しています。

これまでIT関連製品の卸売事業を通じて培ってきた「地域密着」という独自の強みと、柔軟かつスピーディーな顧客対応を実現する「仕組み」を土台として、今後は単なる製品・サービスの提供にとどまらず、各地域の課題に対してお客さまと共に向き合い、その解決と新たな価値の共創をプロデュースする存在になることを目指していきます。

AIやデジタル技術が急速に進化する今だからこそ、ITがもたらす驚きや楽しさを通じて、ワクワク感や笑顔、喜びをお客さまや地域の皆さまと共に生み出してまいります。

DIS REBRANDING PROJECT

企業としての存在意義と提供価値を見直し、地域と共創して
新たな価値を生み出す企業へと進化するための変革プロジェクト

2025

共想型ワークショップ ― 新社名検討 ―

「未来のDISをつくるリブランディングプロジェクト」の一環として、
25年9月に共想型ワークショップを開催しました。
各本部から総勢28名が集まり、新社名開発方針を検討しました。
社名について全社員にアンケートを取り決定した新社名が「DIS株式会社」です。



2026

【New Project】Delightful ネットワーク

ブランディングや会社の方向性・想いを全国の社員に届けるため、社内ワークショップを開催いたします。

Delightful ネットワークとは？

DISが目指す姿を社員みんなで共有し、働く自分を社員一人一人が好きになれるような会社づくりをしていく仕組みです。各部から推進リーダーを決めてワークショップを実施し、本社運営事務局と各拠点をつなぐ橋渡し役として会社のいろいろな情報や自分事への変換など推進リーダーにより各拠点へ浸透を図る予定です。



事業の意義
なぜ私たちは
存在するのか



人や組織のあり方
どんな組織を
目指すのか



ワークプロセス
仕事の進め方は
どう変わるのか

本社運営事務局

各エリア推進リーダー

各支店／営業所

全社員



7/23 プレワークショップ開催

各部から総勢58名がオンライン・オフラインで集合し8月、9月
に行われるDelightful ネットワーク全体と推進リーダーの役割の
説明、DISの未来のありたい姿について議論を行いました。

日経STEAM2026シンポジウム DIS STEAMゼミ 2026

学校や地域社会の身近な課題を解決する ICTを活用した多彩なソリューションを高校生が提案

高校生・大学生を対象とするICT活用アイデアコンテスト「日経STEAM2026シンポジウム」が、2026年7月31日に東京と大阪の2会場で同時開催されました。その中核プログラムの一つが、ダイワボウ情報システム（DIS）が高校生を対象に実施する「DIS STEAMゼミ」です。2022年の初開催から5回目を迎えた今回は、全国20校・22チームが参加し、学校や地域の身近な課題を解決する、多彩なICT活用アイデアを発表しました。

参加校・参加チームが毎年増加 発表内容も大幅にレベルアップ

「DIS STEAMゼミ」は、単なるプレゼンテーション大会ではありません。STEAM教育を通じて、自分が通う学校や暮らす地域の課題に目を向け、それを解決する発想力を育むこと、学校での学びを社会やビジネスと結び付けること、そして次世代のデジタル人材を育成することを目的としています。インテルやマイクロソフト、Googleなど、グローバルIT企業の日本法人と連携し、2022年から毎年開催されています。

教育ICT分野にも注力するDISはGIGAスクール構想によって整備された「1人1台端末環境をいかに活用するか」を重視しており、日経STEAMシンポジウム全体を通じて、STEAM教育の普及と教育現場におけるICT活用の推進に取り組んでいます。

初開催となった「DIS STEAMゼミ 2022」は大阪会



場のみで行われ、高校・大学がICTを活用した学びの未来を競い合いました。3回目の2024年からは大阪と東京の2会場をオンラインで接続し、双方向で音声と映像をリアルタイムに共有しながら同時開催しています。

テーマも毎年アップデートされています。当初は「ICTで未来を変える。学びの学生生活」を掲げ、教育現場や社会の課題に対するICT活用のビジネスアイデアを競いました。2025年は「ICTで常識を変える。生活・教育の未来探究」をテーマに、身の回りの「当たり前」をICTでどう変革するかを追究。そして今回は「常識を上書きしよう！ICTが作る未来社会」のもと、教育や社会の変革につながるICT活用アイデアを競い合いました。

DIS STEAMゼミは回を重ねるごとに規模を拡大してきました。今年は昨年と同じく、全国20校・22チームが参加。これまで高校生と大学生を対象としていましたが、今回は高校生のみで開催されました。

最優秀賞のアイデアは 実際の活用に進展中

審査の結果、7チームが各賞を受賞しました。審査員特別賞には、兵庫県神戸市の松蔭高等学校（チーム名：よりそい隊）、さいたま市立浦和高等学校（チーム名：Blue Bird・AYSM）、大阪府茨木市の早稲田大阪高等学校（チーム名：ベアーズ）、兵庫県神戸市の甲南女子高等学校（チーム名：Well Bloom）の4チームが選ばれました。





優秀賞には、東京都豊島区の豊島岡女子学園高等学校（チーム名：クローバー）と愛媛県立松山南高等学校（チーム名：ばーちゃるず2）の2チームが選ばれました。そして、最優秀賞を獲得したのは岡山県立瀬戸高等学校（チーム名：DiSPOT）でした。

瀬戸高等学校のチームは、観光DXによって「通過型観光」という課題を解決し、「目的地としての岡山」を目指す実践的な提案を行いました。岡山県産業労働部観光課のデータ（令和6年）を示し、宿泊者が少ない一方で、日帰り観光客が多いという課題を指摘しました。

さらにJTBや岡山観光連盟へのフィールドワークを通じて、「有名な観光スポットはあるものの回遊しにくい」「地元の若者に人気のスポットが十分に発信されていない」といった課題も見いだしました。

これらの課題に対し、瀬戸高等学校のチームは高校生の視点を生かした2つのデジタルツールを提案しました。

1つ目は観光マッチングアプリ「DiSPOT」です。利用者のニーズに合う観光地を直感的に提案するアプリケーションで、表示される質問に○か×で答えるだけで、希望に沿った観光スポットが自動的に抽出されます。2つ目は岡山県に特化した旅行SNS「オカトリ (OKA TRI)」です。ガイドブックに載っていない、地元の人がおすすめる観光スポットを発信します。

これらの提案はアイデアにとどまらず、すでに備前市や備前商工会議所と連携し、試験運用や実装が進められています。

DISの社員がメンターとして伴走 仕事に生かせる高校生からの学び

DIS STEAMゼミでDISが高校生に提供するのは、発表の場だけではなく。課題の選定から解決策の発

案、アイデアを具現化する方法、プレゼンテーション資料の作成まで、各チームに専任メンター1名が伴走し、さらに複数のテクニカルアドバイザーが要請に応じて技術面を助言する体制で各チームを支援しました。

今回は2026年5月に第1回のオンラインワークショップを実施しました。チームのメンバーが発表で取り上げたテーマ（課題）を持ち寄り、DISのテクニカルアドバイザーから各テーマの解決策や実現方法について助言を受けながら議論し、チームとして取り組むテーマを決定しました。その後、課題の調査・分析や解決策の検証を重ね、プレゼンテーション資料を作成。計5回のオンラインワークショップを経て、発表当日を迎えました。

メンターとしてチームを支援したDISの営業職社員の一人は、高校生が学校や地域の課題を柔軟な視点で捉える姿に触れ、その着眼点から多くを学んだといいます。この経験を営業活動における顧客への提案に生かしたいと話していました。

また高校生の多彩なアイデアに向き合う中で、グローバルなICT製品を幅広く取り扱い、多様なソリューションを提案できるDISの強みを改めて実感したと語る社員メンターもいました。このようにDIS STEAMゼミは、未来のデジタル人材を育成するだけでなく、DIS自身の成長にもつながる取り組みとなっています。

さらに来場した生徒がSTEAMプログラムを実際に体験できる「DIS 特設体験コーナー」も毎回出展しています。DISが取り扱っているAIをはじめとした最新テクノロジーを生かしたICT機器やソリューションを用いて、STEAMのさまざまなプログラムを提供しています。今回は「合成動画作成」「CAD・3Dプリンター」「AR作成」「プログラミング」「ドローン操作」などのコーナーが用意され、どのコーナーも来場した生徒たちが熱心に説明を聞く姿が見られ、終始盛況でした。



オーエム製作所 代表取締役社長 水田 博

モノづくり精神を伝承し、 産業インフラ構築に貢献する

—— ご就任おめでとうございます。社長就任にあたり、どのような決意を抱かれましたか。業界動向と共にご紹介ください。

2026年6月25日に社長に就任しましたが、これだけの大役を拝命したことに、身の引き締まる思いを感じました。オーエム製作所グループは長い歴史を持つ会社で、立旋盤というニッチでありながら社会インフラを支える重要な領域で実績を積み重ねてきました。今日の会社があるのは、諸先輩方が築いてこられた技術と信頼があるからです。その歴史をしっかり受け継ぎ、守ることが私の最初の使命だと感じました。

同時に、会社をさらに成長させていく責任もあります。従業員、お客様、株主様に対して、オーエム製作所グループがこれからも社会に必要とされる企業であり続けるために、業容拡大に向けて力を尽くしていく。その覚悟を胸に、社長としての一歩を踏み出しました。

当社グループの中核事業である工作機械業界は、世界市場で年間6～9%の成長、また国内市場でも今年度は2兆円規模となる見通しが出ています。日常生活の中にあるほとんどの製品は工作機械によって生産されており、当社はその「機械をつくる機械＝マザーマシン」のメーカーとして、エネルギー、航空機、建設機械、造船などの重厚長大産業から精密機械産業まで幅広く支え、産業インフラの未来を担う役割を果たしています。

—— 水田社長は技術者として出発し、営業や海外部門などを経験されました。その中で大きな転機はありましたか。

私は工学系の学校を卒業し、技術者になることを目指してオーエム製作所に入社しました。配属は技術部で、長岡工場で大立旋盤(※)の設計に携わりました。当社は「立旋盤のオーエム」と称されるほど、高い性能と品質で、特に中・

大型クラスでは国内外から高い評価を得ています。大型機の設計を経験することで、小型・中型も含め当社が有する製品ラインナップ、その性能・技術について網羅的に学ぶことができました。現在にもつながる貴重な経験となっています。

最初の転機は入社4年目、大阪本社の営業部への異動でした。私も妻も大阪出身だったことから、当時の技術部長が親心で配慮してくださったようですが、技術者としてキャリアを描いていた私にとっては思いがけない辞令でした。営業の経験がないどころか当時は無口な技術屋で、右も左も分からない状態でした。それでも、「自分ができることはなんだろう」と考えながら年数を重ねるうちに、自分の強みが徐々に分かるようになってきました。それは「図面が読めて技術的な説明ができる」こと。お客様の要望を正確に理解し、それを設計に伝え、工場との妥協点を探りながら最適解を見出す、お客様・工場・営業の三者が納得できる“三方良し”の自身の営業スタイルが、成績にもつながるようになっていきました。

営業として最も記憶に残っているのは、数億円規模の大型商談での一件です。競合を退けて受注したものの、完成立ち会いでお客様の要求精度を満たせず、工場も「これ以上は不可能」と断言。お客様と工場の間に挟まれ、長岡工場に張り付きながら1カ月半以上テストを繰り返しましたが、それでも合格点には達しない。困り果てましたが、当時の課長が各所に掛け合ってくれました。すると現場の職人さんの間で「ああでもない、こうでもない」とアイデアの出し合いが始まりまし

※立旋盤(たてせんばん)＝主軸が垂直方向(地面に対して縦向き)を向いた工作機械。発電機の部品や大型リングなど、自重で不安定になりやすい大型・重量部品の高精度な加工に適している。



た。最終的には通常3～4日かかる調整作業を一晩で終わらせ、お客様の要求仕様に一発合格させました。納品後はお客様より、「すばらしい機械です」と追加のオーダーもいただくことができました。お客様の喜ぶ姿、職人さんたちの誇らしげな顔、支えてくれた上司の温かい励まし。諦めていたら見ることができなかった光景に、高揚感と達成感を覚えました。

海外営業部長としての経験も大きな学びでした。米国の航空機エンジンメーカーとの取引では、機密情報のため図面を持ち帰ることができず、ホワイトボードに描かれる仕様を頭で記憶し、見えないユーザーの要望通りの仕様を組み上げるという難易度の高い仕事も経験しました。また、中国向けの大型案件では、5台・約3億円の受注が突然キャンセルされる事態もありました。この危機に、すべての営業部隊が一丸となって転売に奔走し、1年かけて全台を売り切ることができました。

こうした経験を通じ、「困難な状況に対して強固に結束する力」もオーエム製作所の強みだと確信するようになりました。

—— 長岡工場の運営において、人材育成をどのような考え方で進め、組織を変革してこれたのでしょうか。

人材の確保と育成は工場運営の永遠のテーマです。工場の運営責任者として長岡工場に戻った際には、「適材適所」「DX」を変革推進の両輪にしようと考えました。適材適所の施策とは、経験年数や能力に応じて配置を行うことです。これまでは手が空いている人をランダムに配置していましたが、それを、入社1～2年目はベテランの補佐に、3～4年目は自立した仕事を任せるように配置しました。新人はただ技術を習得するだけでなくベテランの技に憧れを抱くようになる、中堅はベテランの領域を目指し技を磨く、ベテランは技術の伝承に誇りを持つレベルを目指す、とそれぞれが努力する。成長の道筋、なりたいイメージを持つことで業務を全うしたときの喜びや達成感人は人を大きく成長させます。そして会社側もきちんとそれを評価する。生産効率がぐっと上がり、手ごたえを感じました。人の能力や個性を見極め、それを引き出すような策を講じることが組織運営の要だと認識し、経営者としての視点を持つきっかけとなる経験でした。

オーエム製作所グループでは技術継承は最も重要な課題のひとつです。属人的な方法では限界があるなか、DXは大切な役割を果たすと考えています。現在はタブレットを活用しながら組立マニュアルの整備や、加工のノウハウなどをデータとして記録し、若手が視覚的に理解できる環境を整えています。現場のDX推進は全社的なプロジェクトとして今後も取り組んでいきます。

—— 工作機械業界の展望と、オーエム製作所グループがダイワボウグループの一員としてこれから果たすべき社会的役割をどのように捉えていますか。

工作機械産業は、AI時代の到来によって新しい需要が生まれています。AIを動かすには膨大な電力、データセンターの設立が必要であり、その電力を生む発電機の部品加工には工作機械が欠かせません。

主力の航空機エンジン分野では、燃費改善に向けた研究開発が常に行われるため、堅調な需要が見込まれています。オーエム製作所の航空機向け売上比率は20～40%に達し、今後重要な柱と位置付けています。

日本は資源のない国です。だからこそ、品質の高いものづくりで支えることが当社グループの使命だと考えています。航空機、発電機、船舶、ロケット、鉄道。社会インフラの根幹を支える部品は、すべて工作機械から生まれます。そしてその社会インフラの変革が進むなか、当社の匠の技術が活躍できる領域も広がっていると感じています。

当社の品質、匠の技術は「オーエムブランド」として高い評価を受けています。それを支えるのは営業や管理、設計、生産、すべての部門が「匠を目指す」意識で日々の仕事に臨んでいるからです。

今後は海外市場での貢献度も高めながら、世界の「オーエムブランド」として豊かな生活や夢のある将来を支えていきたいと考えております。当社の製品に対する責任は関わるすべての部署が背負っており、それこそが伝承すべき「モノづくり企業の匠の精神」です。

ダイワボウホールディングスの一員として、DISグループはITインフラを、オーエム製作所グループは産業インフラを支える。この両輪で、豊かで持続可能な社会へつなぎ、未来へつなぐ。その実現に貢献してまいります。



Profile

1967年生まれ、大阪府出身。
90年、オーエム製作所入社。
26年6月、取締役社長・代表取締役役に就任。趣味はゴルフ。

私たちが『安心して働ける仕組み』って何？ 人権DDとヘルプラインが担う役割

さっす～のサステナ解説!



新入社員：結（ゆっちゃん）
サステナビリティ推進担当者
趣味は旅行で、旅先でおいしいものを
食べるのが大好きです!

やあ、こんにちは! 私は『サステナビリティ ナビ』を務める“さっす～”です。
「人権DD（人権デュー・ディリジェンス）」と聞くと、少し難しそうに感じる
かもしれません。でも実は私たちが安心して働ける職場づくりにも深く関わる
大切な取り組みです。今回は、新入社員のゆっちゃんを感じている、「人権って
何?」という疑問を出発点に、人権DDや内部通報制度（ダイワボウ・ヘル
プライン）まで、わかりやすく紹介していくよ。

最近、「人権DD」という言葉を見かけたのですが、なんだか難しそうで...。
そもそも「人権」って、どんなものなんですか?



たしかに、難しく感じるのも自然なことだよ。人権はね、だれもが生まれながらに持っている、自
分らしく生きるために大切にされるべき権利のことだよ。実は、人権は職場でもとても身近なもの
なんだよ。私たちが安心して働けること、差別やハラスメントを受けないこと、自分の考えをきちん
と受け止めてもらえること。こうしたことも、人権を大切にすることにつながっているんだ。

なるほど! 「人権」ってもっと大きなテーマのイメージがありましたが、職場で働く私たちにとって、
身近なテーマなんですね。では、「人権DD」ってどんなものなんですか?

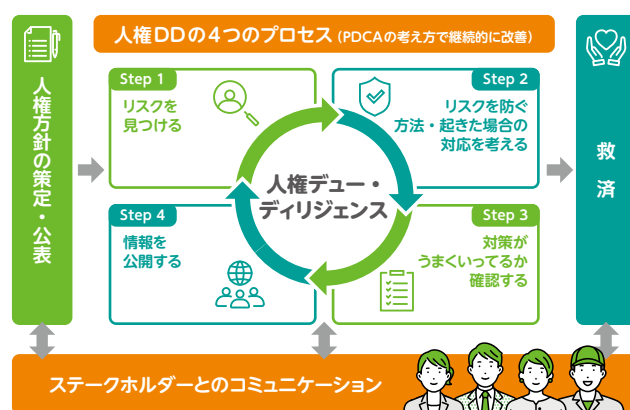


人権DDは、「人権デュー・ディリジェンス」の略なんだ。
これは、仕事の中で誰かの人権が損なわれないよう、あらかじめ気を配り、必要な対応をしていく仕
組みなんだ。もし人権が損なわれた際には手を差し伸べる仕組みでもあるんだ。会社の中だけでなく、
取引先との関わりもふくめて、人権を大切にしていくことが求められているんだ。

なるほど! では、人権DDでは具体的にどんなことをしているんですか?



今回は人権DDの中でも、私たち従
業員に関わる取り組みを見ていく
よ! まず、人権への影響を見つける
ためにリスクを調べるんだ。人権問
題の影響の大きさや、その影響がど
こまで広がるのか、実際に起こりう
るのかどうか総合的に見ながら、特
に優先して取り組むべき課題を見つ
けているよ。こうして、問題が起き
る前から人権への影響を見つけて
備えているんだ。



何か問題が起きてからではなく、“未然に防ぐ”ことで、
人権を大切にする取り組みに力を入れているんですね。



その通りだよ。さらに、人権に関する教育や啓発を通じて、組織全体で人権を大切にする意識を広げているよ。当社グループでは直に対応が必要な深刻な課題は特定されていないけれど、もし人権への負の影響、つまり誰かの人権が損なわれてしまうようなことがあった場合には、関係する人たちとしっかり話し合いながら、必要な対応や改善に取り組む方針なんだ。さらに、取り組みが実際に役立っているかを確認めるために、従業員調査を行い、その結果や取り組みは、統合報告書などを通じて外部にも公開しているんだ。

なるほど！ 人権DDを通じて、人権を大切にしていることがよく分かりました。そういえば「**内部通報制度**」という言葉も一緒に見かけたんですが、なにか関係しているのでしょうか？



関係しているよ。内部通報制度（ダイワボウ・ヘルプライン）は、法令違反や不正行為、ハラスメントなどについて相談や通報ができる仕組みなんだ。でも、それだけじゃないんだ。職場で感じた「あれ？」という小さな違和感や、自分ひとりでは判断に迷うことを、いつでも相談できる場所でもあるんだよ。

でも、相談したことが周りに知られたり、自分が**不利な立場**になったりしないか、どうしても不安に感じてしまって…。本当にためらわずに使っていいものなんですか…？



その気持ち、よく分かります。でも大丈夫ですよ。ヘルプラインは、あなたのプライバシーはしっかりと守られますし、名前を伏せて相談することもできます。相談内容は大切に受け止め、あなたが不安や心配を感じないよう、会社として責任をもって対応します。「こんなこと聞いてもいいのかな？」という小さなモヤモヤでも大丈夫。一人で抱えこまずに、早めに伝えてもらえることが大切なんです。

なるほど。職場で感じた「ちょっと気になること」や「モヤモヤすること」をひとりで悩まず、安心して話すことができる窓口なんですね。そう聞くと、少しホッとしました！



良かったです！ 人権を守るための取り組み（人権DD）や内部通報制度は、皆さんが安心して笑顔で働ける職場をつくるために、なくてはならない、とても身近なものなんです。これからも、一人ひとりの気持ちを大切にしながら、居心地のいい職場を一緒に作っていきましょうね！

人権尊重は、特別なことをするというより、日々の業務やコミュニケーションの中で、相手を尊重することから始まります。まずは周りの仲間への丁寧な挨拶から始めてみませんか？ こうした小さな積み重ねが、誰もが安心して働ける職場づくりにつながります。
それでは、さっす～！

詳しくは、QR先を
チェックしてみね！



HP「事業活動における
人権の尊重」



Contents

Top Message

- 03 「MUSUBITE」に込めた、
私たちの未来への想い
ダイワボウホールディングス 代表取締役社長
西村 幸浩

Rebranding Project

- 06 ダイワボウホールディングスは、
MUSUBITE株式会社へ。

Rebranding Project

- 08 ダイワボウ情報システムは、
DIS株式会社へ社名変更します！

NIKKEI STEAM 2026 SYMPOSIUM Report

- 10 学校や地域社会の身近な課題を解決する
ICTを活用した多彩なソリューションを
高校生が提案

O-M Ltd. New President Interview

- 12 モノづくり精神を伝承し、
産業インフラ構築に貢献する
オーエム製作所 代表取締役社長
水田 博

ESG

- 14 私たちが『安心して働ける仕組み』って何？
人権DDとヘルプラインが担う役割

編集後記

サイバー攻撃被害や個人情報のデータ流出などITの世界では物騒なニュースが後を絶たず、ゼロトラストに基づくセキュリティ対策が求められている。一方、現実の世界に目を向ければ地震や洪水など、想定を超える自然災害が毎週のように世界のどこかで発生している。「常二備へヨ」という先人の言葉が頭をよぎる。もはや想像を超えた「想定外の事態」に対して、私たちはどこまで対策を講じることができるのだろうか。「大丈夫だろう」と過信せず、常に備えを見直し続けること。今の時代に求められている心構えを考えつつ、今日もお気に入りサイトのパスワード再設定は「また今度」。まずは己のゼロトラストから始める必要がありそうだ。

ダイワボウホールディングス株式会社

設立日

大和紡績株式会社として創立 1941年4月1日
ダイワボウホールディングス設立 2009年7月1日

資本金

216億9,674万4,900円

株式情報

証券コード：3107
東京証券取引所 プライム市場（卸売業）

事業セグメント・主要事業会社

ITインフラ流通事業

ディストリビューション	ダイワボウ情報システム(株)
サービス&ソリューション	ディーアイエスサービス&ソリューション(株)
ITインフラソリューション	アルファテック・ソリューションズ(株)

産業機械事業

工作機械	(株)オーエム製作所
自動機械	(株)オーエム機械
鋳造・加工・組立	オーエム金属工業(株)



発行者

ダイワボウホールディングス株式会社

Daiwabo Holdings Co., Ltd.

〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト

TEL (06) 7739-7300

<https://www.daiwabo-holdings.com>



見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。